

会 議 録

会 議 名		平成 29 年度 第 3 回 八王子市環境推進会議			
日 時		平成 30 年 2 月 20 日 (火)	開 始	10 時 00 分	終 了
場 所		八王子市役所職員会館 2 階 第 3 会議室			
出席者氏名	委 員	【環境市民会議】 依田 和子、佐藤 晃、浅田 政勝、谷村 伸一 (議長)、千明 武紀、田中 猛、山下 明子 【市民委員】 飯沢 由里香、小沼 廣、吉川 政雄 【市職員】 小山総合経営部長、原田資源循環部長、池内水循環部長、 三輪まちなみ整備部長、南部環境政策課長 以上 15 名			
	事務局	環境部環境政策課 : 星主査、三田主任、高橋主事、道山主事 資源循環部ごみ減量対策課 : 木下課長、河井主査、日野主任 以上 7 名			
欠席者氏名		栗田 和仁、高橋 一郎、奥村 司、沼田 政見、加納 啓有、守屋都市計画部長、 佐久間環境部長 (副議長) 以上 7 名			
議 題		1. 議題 (1) 第 2 次環境基本計画の中間見直しに係る基本的な考え方について (2) ごみ処理基本計画の改定 (中間報告) について (3) その他			
公開・非公開の別		公開			
配 付 資 料		【事前配付】 ・ 次第 ・ 【資料 1】 第 2 次環境基本計画の中間見直しに係る基本的な考え方について ・ 【参考資料 1-1】 第 2 次環境基本計画抜粋 ・ 【参考資料 1-2】 第 2 次環境基本計画の中間見直しに係る進捗等 ・ 【資料 2】 ごみ処理基本計画の改定 (中間報告) について 【当日配付】 なし			
内 容		・ 谷村議長挨拶 ・ 委員の出欠及び配布資料の確認 1. 議題 (1) 第 2 次環境基本計画の中間見直しに係る基本的な考え方について ・ 第 2 次環境基本計画の中間見直しに係る基本的な考え方について、資料 1 に基づき、事務局 (環境政策課) より説明した。 【説明内容抜粋】 ■第 2 次環境基本計画は、環境基本条例に基づき策定しており、平成 31 年 3 月に前期期間が終了することから、策定後の社会情勢の変化などに対応した中間見直しを行う。 ■現行計画の体系として、「未来へ続く、水とみどりにあふれた健康で心やすらぐまち」を望ましい環境像として掲げ、「人と自然が共生したまちをつくる」、「資源・エネルギーが循環し、地球環境にやさしいまちをつくる」、「みんなが協働して環境保全に取り組んでいるまちをつくる」、「安全で良好な環境のもと、健やかに暮らせるまちをつくる」ことを基本目標としている。 ■15 施策の成果指標に対する達成見込みについて、「順調」が 7 項目、「おおむね順調」が 3 項目、「やや遅れている」が 4 項目、「目標設定なし」が 1 項目となっている。			

【質疑応答】

■ダンボールコンポストの取り組みにおける目的、意義、目標について説明して欲しい。
→生ごみを減らす取り組みのきっかけとして、紹介させて頂いている。今回は基本計画の概論を説明しているが、ごみ処理基本計画の中間見直しで目標管理の1つとしてやっている事項である。

■以前、10年間の目標で全世帯の10%でごみ処理の資源化を達成する話を聞いたが状況はどうか。
→生ごみの資源化に取り組んでいる家庭は世論調査としては10%を超えている所ではあるが、調査方法を含め今後検討の上、報告していく。

■資料1の15施策の成果指標に対する達成見込みについて、「やや遅れている」という項目が4つあるが、原因などを見直しして反映しているか。
→計画に反映するまでには至っていないが、今後検討して随時報告していく。

■資料1の15施策の成果指標に対する達成見込みについて、「やや遅れている」という項目に「周囲の生活環境について良いと感じている市民の割合」とあるが、これは世論調査における結果なのか。また、その場合の原因分析や傾向についてまとめられているか。
→世論調査において結果の傾向を探っている所ではある。しかし、それだけでは質問内容の種類が幅広く詳細まで判断できないので、市政モニターや市政アンケート等の他の手法も含め検討の上、分析していく。

■現行計画の課題の1つに里山保全活動の担い手の不足とあるが、近隣の日野市では年間を通して雑木林の保全の手入れ等を行っており需要と供給があるため、このような他市の施策なども参考にしているかどうか。
→八王子市では里山サポーター養成講座等を行っている所ではあるが、近隣でこういった事例があるかは重要であるため、改めて調べていく。
(日野市では、雑木林ボランティア講座を今年で14期開催している。都の緑地を使用し、初心者向けの座学と実技を全11回のコースで実施。講座の修了生は市内の保全団体に加入を促し、継続して雑木林の手入れを行う人材を育成している。八王子市の里山サポーター養成講座も同様の取組である。)

■中間見直しに係る基本的な考え方について、現在まだ案という段階にある。今後、環境審議会や庁内会議を予定しており、今回皆様から頂いた意見を参考に内容を多少変更する可能性があるため、御了承頂きたい。

(2) ごみ処理基本計画の改定(中間報告)について

八王子市ごみ処理基本計画の改定について、資料2に基づき、事務局(ごみ減量対策課)より説明した。

【説明内容抜粋】

■2「現行計画」における課題として、家庭系可燃ごみの削減、さらなる指導啓発、環境教育の充実の3つをあげている。

■4「基本施策の重点取り組みについて」、環境教育・人材育成のための取り組み、生ごみの減量・資源化の推進、排出事業者への指導、ごみ・資源物処理の基盤となる処理施設の整備・検討の4つを現計画における課題を踏まえ、設定している。

■5「具体的事業例(基本方針1~4)」について、三者協働による取り組みの推進として資源物の集団回収の促進、環境教育・人材育成のための取り組みとしてリサイクル推進員との協働による啓発や生ごみリサイクルリーダーの養成、生ごみの減量・資源化の推進としてダンボールコンポストの普及拡大や家庭における食品ロス削減の促進、排出事業者への指導として資源化を促す訪問指導の拡大、資源エネルギーの有効利用の促進として民間施設との連携等も含めた、新たな資源化事業の検討等を行っている。

■6「数値目標」では、埋立処分量について平成30年度に達成見込みのため目標から外す。また、「ごみ・資源処理経費」の項目についても、経費は別途管理・公表することとし、目標から外す。その他3項目については新計画において引き続き設定する。

	<p>■ 7 「リサイクル率について」では、資源物の傾向として流通量減と軽量化における社会要因とした減少傾向にはあるが、市民の方々の協力の高さを示すために家庭系ごみに特化した補助指標を新たに検討している。</p> <p>■ 8 「今後のスケジュール」では、環境審議会で協議・中間報告、政策会議への付議、議会への報告後、パブリックコメントを実施する予定である。</p> <p>【質疑応答】</p> <p>■ 環境市民会議で出た話の意見交換はどこで行えば良いか。 →この会議の場でご意見をいただくか、パブコメを活用し各地区の環境市民会議の意見等を出して頂きたいと考えている。</p> <p>■ 資料2-5 具体的事業例（基本方針2）生ごみの減量・資源化の推進について、例えば大型生ごみ処理機の導入等のダンボールコンポスト以外の取り組みはないのか。 →ダンボールコンポストの普及拡大以外にも、事業者向け講習会を通じて生ごみ処理機の導入を促したり、食品ロス削減を推進する等、様々な手法による生ごみの減量を推進していく。</p> <p>■ ダンボールコンポストについて、八王子独自の物も考えていると聞いたが、どうか。 →八王子市内で用意した八王子市独自の基材を使ったダンボールコンポストも検討している。市民から市民への啓発を進めるため、生ごみリサイクルリーダーを今後充実させていく方向で検討している。</p> <p>■ 資料2の5 具体的事業例（基本方針3・4）について、事業者に対する啓発活動をもっと推進して欲しい。私の事業所では、ごみの減量に取り組んだ結果、現在は少量排出事業系ごみ収集制度を利用してごみを排出している。少量排出事業者のごみ分別に関して、プラスチックが不燃ごみに含まれているが、それは今も変更ないか。 →法律の定めによるので、特に変更はない。基本的に事業系から出るプラスチックに関しては産業廃棄物の扱いとなるため、家庭系とは分別が異なっている。事業系のごみの分別に関しては、事業者へのさらなる説明が必要だと感じている。</p> <p>(3) その他 加納委員より、文書による意見があったため、事務局より説明した。</p> <p>【意見要約】</p> <p>■ 資料2 「ごみ処理基本計画」について現計画における課題のトップに「家庭系可燃ごみの削減」を掲げているが、燃やさなければよいのではないかと。燃やさないことで資源化の一端となるが、ダンボールコンポストではなかなか減量にならない。そのため、新館清掃施設を大規模な生ごみ資源化施設として整備すれば、全面的に解決するのではないかと。 →新館清掃施設は焼却工場として整備しているところである。生ごみの資源化については、廃棄物処理の動向も踏まえながら、処理施設の検討・研究を進めていきたい。市民の方の御協力を頂きながら、可燃ごみの減量を進めていくことが必要だと考えている。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
署名人	平成 30 年 4 月 12 日 署名人 千明 武紀